

令和7年度 病虫害発生情報 第1号

令和7年5月14日
千葉県農林総合研究センター長

スクミリンゴガイの発生状況について

1 発生状況

- (1) 5月上旬に行った県内68地点の巡回調査において、スクミリンゴガイ（写真1、2）の1㎡当たり貝数は0.65頭（平年値0.21頭）、被害株率は1.59%（平年値0.40%）と、過去10年と比較して最も高かった（図1、2）。一方で、本種の分布には偏りがあり、発生が確認されたのは山武、長生、夷隅、香取、海匠地域の14地点であり、さらに、そのうち食害が確認されたのは5地点のみであった。
- (2) 気象庁の1か月予報（5月8日発表）では、向こう1か月間の平均気温は「高い」予報であり、スクミリンゴガイの活動に適した環境になることが予想される。
- (3) スクミリンゴガイは、柔らかい4葉期までのイネを食害するため、4月下旬以降に移植した水田では、4葉期（移植後約3週間）まで食害に注意し、浅水管理等、耕種的防除を中心とした対策を行う。



写真1 水田内を移動するスクミリンゴガイ



写真2 イネを摂食するスクミリンゴガイ

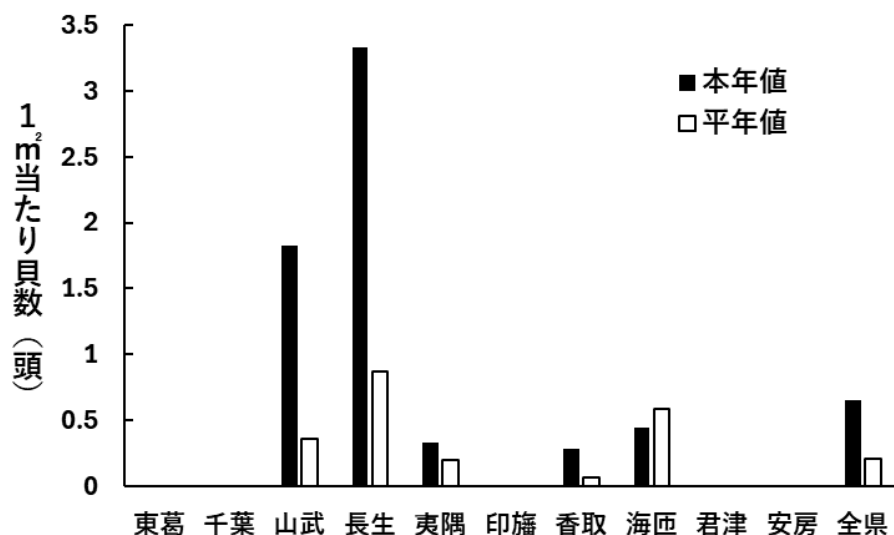


図1 各地域におけるスクミリングガイの1 m²当たりの貝数(頭)

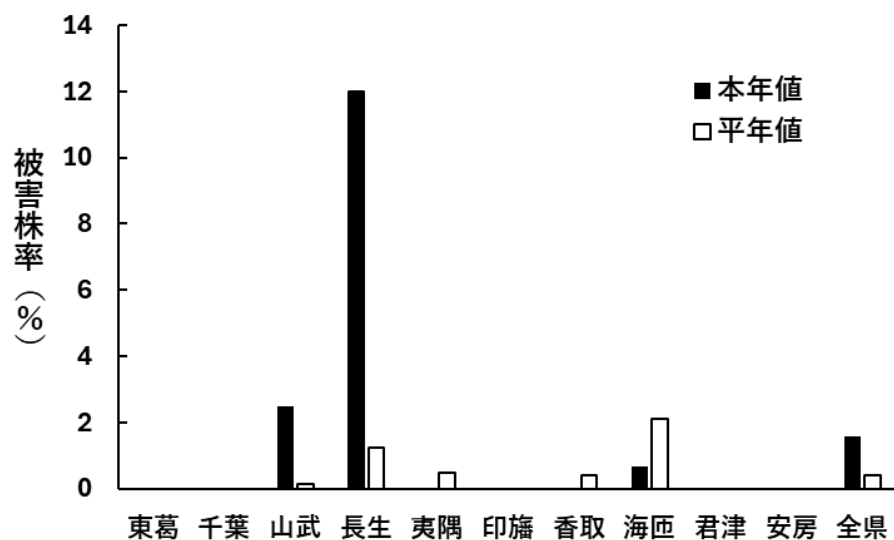


図2 各地域におけるスクミリングガイの被害株率(%)

2 防除対策

(1) 耕種的防除

①浅水管理

スクミリングガイは、水深が浅いと活動が抑制されるため、4葉期(移植後約3週間)まで、水深を4 cm以下(理想は1 cm)に維持する。

②水路からの侵入防止

水路に生息する殻高2 cm以上の食害に直結する貝の侵入を防ぐため、取水口に9 mm目合い程度のネットや金網を設置する。

(2) 化学的防除

防除効果を高めるため、耕種的防除と併用して行う。また、水温があがり(15℃以上)、貝が活発に動いている姿を確認してから、薬剤を散布する(表を参照)。

表 本田防除で散布する薬剤（令和7年版農作物病害虫雑草防除指針（付 植物成長調整剤使用指針）より抜粋）

I R A C コード※ ¹	薬剤名※ ²	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	備考
-	スクミノン	1～4 kg/10a	収穫60日前まで	2回以内	食毒による殺貝 ＋食害防止
-	スクミンベイト3※ ³	2～8 kg/10a	発生時	-	食毒による殺貝 ＋食害防止
14	パダン粒剤4	4 kg/10a	収穫30日前まで	6回以内※ ⁴	食害防止

※1 I R A Cコードとは、殺虫剤の作用機構の分類を表すものである。薬剤抵抗性の発達を防ぐため、同一コードの薬剤は連用しない。

14：ネライストキシン類縁体

※2 薬剤名が異なっても同じ成分を含む薬剤があるので、使用前に確認し、同じ成分がある場合、合計使用回数が制限を超えないように注意する。

※3 スクミンベイト3の有効成分はリン酸第二鉄であり、有機農産物の日本農林規格で使用が認められており、化学合成農薬の成分回数にカウントされない。

※4 パダン粒剤4の使用回数は苗箱処理の回数を含む。

注1 農薬の使用に当たっては、最新の農薬登録情報を確認し、製品ラベルに記載された使用基準等を守り適正に使用する。

注2 散布後7日間は、落水やかけ流しをしないこと。

- ・病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>

- ・薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。

<https://pesticide.maff.go.jp/>

問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp

